



桜 風

合志市立西合志中央小学校学校だより

校訓【健康 工夫 協同】

令和 7 (2025) 年 2 月 1 9 日 第 9 号

文責：校長 佐藤 正貴

情報伝達機能の発達で考える事・・・①

一人一台の端末、ネット上の情報や個人が発信している内容にすぐにアクセス出来る環境。必要な事を必要な時に調べることができる、購入できる利便性。現金を持ち歩かない日常。私が子どもの頃とは、大きく変化しています。学校で友だちと遊ぶ約束をした場合、時間を守ることは絶対に必要な事でした。学校で別れた後は、それぞれの時間で動くため、上手く連絡を取ることが出来ませんでした。相手の家の電話番号は、よほどの事が無い限り、知ることもありませんでした。約束の時間を守らなければ置いて行かれる、ひどいときは、約束を守ることができない「うそつき」呼ばわりされることもありました。こうして「時間を守ることは、人と付き合っていく上で重要であるという感覚」がつけられました。勿論、学校に行く時も友だちと待ち合わせ時間を約束して登校していました。

今は、メールやLINEで簡単に連絡を取ることができます。時間に遅れそうな時は、すぐに相手に自分の状況を伝えることができます。とても便利だと思う反面、それに慣れたくはない自分がいます。なぜなら、自分の事を優先しているのか、相手のことを考えているのかという自分自身の生き方に直結していると考えているからです。時間を守るためには、様々な状況を考慮しながら計画的に動く力が必要です。そうした力は、社会生活を営む上で必要な能力ではないでしょうか。私自身の現在を振り返りながら述べてみました。人に迷惑をかけない生き方を目指し続けたいと思っています。

・・・②

以前は、メディア等の情報に関して、私達の多くは単に受ける側でした。現在は、多くの人々が簡単に発信する側になることができます。発信する側のモラルが大切になってきますが、表現の自由に託けて他人の言動を誹謗中傷するような行為を見ると、残念な気持ちになります。また、発信する側だけでなく、受信する側も正しい情報なのかどうかを判断する能力も身に付けることも必要です。ネット環境を活用した詐欺事件や闇バイトの問題などは、日々巧妙化しています。こうした問題に巻き込まれる人は、どんどん低年齢化しています。「小学生だからまだ安心」ではありません。学校では、こうした問題について子どもたちや保護者への情報提供や教室で学ぶ機会をつくることはできます。しかし、実際の問題は、子どもたちが下校した放課後、休日などに起きます。お子さんがゲームやスマホで何をしているのか把握しておいてください。合志市のPTAで確認しているスマホの使い方ルールを徹底してください。子どもたちが安心して生活できる基盤は家庭にあります。子どもたちが、こうした情報機器を正しく、便利に活用できるようになるためには、家庭での学びが必要不可欠です。合わせて、子どもたちが、実際に何をしているのか正確に把握することも家庭でしかできないことです。よろしくをお願いします。

人との繋がりは挨拶から・・・。

学校便りでは、よく挨拶のことにふれます。目的の1つは、私自身がきちんと出来ているのか振り返るためです。今でも、しっかり出来ない場面があります。子どもたちに挨拶をされても、目を見て返せない時もあります。思い返すと落ち込みます。次はしっかりしよう！といつも思いますが、同じ事を繰り返しています。反省です。

2つめは、子どもたちの変容を伝えるためにです。学校では、子どもたちから元気な声で挨拶をしてくれます。遠くから声をかけてくれます。3年間で随分変わりました。地域の方も、学校ではしっかり挨拶ができているとお褒めの言葉を頂いています。課題は「学校では・・・」です。「地域でも・・・」に変わるように挨拶の大切さを繰り返し伝え続けます。

授業参観・学級懇談会、お世話になりました。

当日は、多数の保護者の方々に来校いただき、ありがとうございました。

1年間で成長を感じた部分もあれば、まだまだ課題として残っているところもあります。

成長は共に喜び、課題は、改善できるように試行錯誤しながら、児童とともに考えて、対応しつづけていきます。

